土砂災害時の避難確保計画

ここで示している計画はあくまでも作成例です。

実際の作成にあたっては、各施設の実情に合わせ、適宜修正し作成してください。

○○○○（施設名）

○年○月　作成

（○年○月　修正）

# １．計画の目的

この計画は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第8条の2第1項に基づくものであり、「○○○○（施設名）」の利用者の土砂災害からの円滑かつ迅速な避難の確保を図ることを目的とする。

２．計画の報告

　計画を作成及び必要に応じて見直し・修正をしたときは、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第8条の2第2項に基づき、遅滞なく当該計画を市長へ報告する。

３．計画の適用範囲

この計画は、「○○○○（施設名）」に勤務又は利用する全ての者に適用するものとする。

　　【施設の状況（人数）】

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平日 | | 休日 | |
| 昼間 | 夜間 | 昼間 | 夜間 |
| 利用者 | ○名 | ○名 | ○名 | ○名 |
| 施設職員 | ○名 | ○名 | ○名 | ○名 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| レベル | 体制確立の判断時期 | 活動内容 | 対応要員 |
| **警戒レベル１**  **↓**  **災害への心構えを高める段階** | ・警報級の可能性（大雨警報または暴風警報）「中」または「高」が発表された場合  ・台風の接近が予想されている場　　合 | ・気象情報、前兆現象情報の収集  ・職員への情報伝達 | 情報収集伝達要員 |
| ・状況把握、指揮  ・体制確立の判断  ・事前休業の判断 | 統括指揮者 |
| **警戒レベル２**  **↓**  **注意体制** | ・大雨注意報が発表された場合 | ・気象情報、水位情報、避難情報、避難先情報等の収集  ・職員や避難支援協力者への連絡 | 情報収集伝達要員 |
| 避難の準備  ・避難誘導体制の確認  ・避難ルートの確認  ・避難に必要な設備や装備品、備蓄品、持出品等の点検、準備  ・移動用車両の手配 | 避難誘導要員 |
| ・状況把握、指揮  ・施設職員等召集  ・（避難開始判断） | 統括指揮者 |
| **警戒レベル３**  **↓**  **警戒体制** | ・高齢者等避難が発令された場合  ・大雨警報が発表された場合 | ・気象情報、水位情報、避難情報等の収集  ・保護者等への連絡  ・市役所への連絡 | 情報収集伝達要員 |
| 避難誘導開始  ・要配慮者への装備品の装着  ・移動用車両の確保  ・持出品等の運搬 | 避難誘導要員 |
| ・避難開始判断 | 統括指揮者 |
| **警戒レベル４**  **↓**  **非常体制** | ・避難指示が発令された場合  ・土砂災害警戒情報が発表された場合 | 避難完了の確認  ・避難先での要配慮者への支援  ・避難先での持出品等の管理  ・市役所への連絡  ・（緊急安全確保の誘導） | 避難誘導要員  情報収集伝達要員 |
| ・避難先での監督  ・（緊急安全確保の判断） | 統括指揮者 |

４．防災体制

●事前対策

　台風の接近など、あらかじめ災害の危険性が高まることが予想される場合は、夜間当直職員の増員や施設の休業などを検討するとともに、各職員の役割分担を再確認する。

●　事前休業の判断について

早期注意情報（警報級の可能性）の「中」または「高」が発表されている場合や大型台風の襲来が予想される場合、公共交通機関の計画的な運休が予定される場合、翌日の通所部門を臨時休業とする。

　または午前8時の時点で、香取市に以下のいずれかが発令されている場合は、通所部門を臨時休業とする。

**事前休業の判断基準となる防災気象情報等**

・高齢者等避難

・暴風警報または特別警報

・大雨警報または特別警報

・土砂災害警戒情報

※開業時間と利用者、幼児・児童・生徒の通所にかかる時間も考慮して、休業の判断をする。

5.　情報収集及び伝達

* 1. 情報収集

収集する主な情報及び収集方法は、以下のとおりとする。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 収集する情報 | 収集方法 |
| 共通の情報 | 【防災気象情報（気象庁）】  ・早期注意情報（警報級の可能性） | ・テレビ、ラジオ、インターネット（気象庁のウェブサイト） |
| 【避難情報（市）】  ・警戒レベル３　高齢者等避難  ・警戒レベル４　避難指示  ・警戒レベル５　緊急安全確保 | ・防災行政無線  ・テレビ、ラジオ  ・インターネット（市役所のウェブサイト）、緊急速報メール、登録制メール（市役所） |
| 【避難所の開設状況（市）】  指定緊急避難所や福祉避難所の開設状況 | ・防災行政無線  ・テレビ、ラジオ  ・インターネット（市役所のウェブサイト）  ・市へ電話問い合わせ　等 |
| 土砂災害 | ・大雨注意報、大雨警報、大雨特別警報  ・土砂災害警戒情報  ・土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布） | ・テレビ、ラジオ、インターネット（気象庁のウェブサイト）  ・テレビ、ラジオ、インターネット（気象庁、県のウェブサイト）  ・インターネット（気象庁のウェブサイト） |

* 停電時は、ラジオ、タブレット、携帯電話を活用して情報を収集するものとし、これに備えて、乾電池、バッテリー等を備蓄する
* 提供される情報に加えて、雨の降り方、施設周辺の水路や道路の状況、斜面に危険な前兆が無いか等、施設内から確認を行う。

1. 情報伝達

* 別紙○「体制ごとの施設内緊急連絡網（平日用・休日用）」に基づき、気象情報等の情報を施設内関係者間で共有する。
* 利用者を避難させる可能性がある場合には、別紙△「利用者家族緊急連絡網」に基づき、利用者家族に対し、「●●●●（避難場所）へ避難する」旨を連絡する。
* 利用者を避難させる場合には、市役所に「これより●●●●（避難場所）に避難する」旨を連絡する。
* 利用者を避難させる場合には、別紙△「利用者家族緊急連絡網」に基づき、利用者家族に対し、「●●●●（避難場所）へ避難する。利用者の引き渡しは●●●●（避難場所）において行う。利用者引き渡し開始については、追って別途連絡する。」旨を連絡する。
* 避難の完了後、市役所に避難が完了した旨を連絡する。
* 避難の完了後、別紙△「利用者家族緊急連絡網」に基づき、利用者家族に対し、「避難が完了。これより●●●●（避難場所）において利用者引き渡しを行う」旨を連絡する。

6.　避難誘導

* 1. 避難場所

以下のとおり洪水の避難想定を鑑み、目標避難所を設定する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 土砂災害に関する指定状況 |  | 区域区分 |
| 敷地全体 | □ 警戒区域(ｲｴﾛｰ)　□ 特別警戒区域(ﾚｯﾄﾞ) |
| 建物部分 | □ 警戒区域(ｲｴﾛｰ)　□ 特別警戒区域(ﾚｯﾄﾞ) |
| 土砂災害からの  避難場所 | 第1目標 | ○○小学校（○○地区○○番地） |
| 第2目標 | 施設内避難場所：○棟○階○室 |

第2目標・・・被害状況や利用者の健康状況等により第1目標に避難する時間的余裕のない場合に目標とする避難場所のこと。

施設内避難場所・・・避難が遅れ、屋外避難が困難になった際にやむを得ず施設内で避難する場合の、上層階で山の反対側に位置する、出来る限り安全の確保されたスペース。

* 1. 誘導基準

①市役所等からの情報に基づく判断

　次の気象情報等の発表・発令があった場合に、避難等を開始する。

　・土砂災害警戒情報の発表

　・高齢者等避難の発令

②自主避難の判断

　次に示すような土砂災害の前兆現象を確認した際は、市役所等の情報を待つことなく避難を開始する。前兆現象については、安全確保のため施設内から確認できる範囲で把握し、消防等に報告する。

【土砂災害の前兆現象】

　・がけの表面に水が流れ出す。　　　・樹木の根の切れる音がする。

　・がけから水が噴き出す。　　　　　・樹木の倒れる音がする。

　・小石がパラパラと落ちる。　　　　・がけの割れ目が見える。

　・がけからの水が濁りだす。　　　　・斜面がふくらみだす。

　・がけの樹木が傾く。　　　　　　　・地鳴りがする。

* 1. 避難経路
* 土砂災害時における避難場所までの避難経路については、別紙○「避難経路図」のとおりである。
  1. 避難誘導方法
* 施設外の避難場所に誘導するときは、避難場所までの順路、道路状況について避難者へ説明する。
* 徒歩での避難誘導にあたっては拡声器、メガホン等を活用し、先頭と最後尾に誘導員を配置する。
* 避難誘導員は、避難者が誘導員と識別しやすく、また安全確保のための誘導用ライフジャケットを着用し、必要に応じて蛍光塗料を現地に塗布するなどして、避難ルートや側溝等の危険箇所を指示する。
* 避難する際には、ブレーカーの遮断、ガスの元栓の閉鎖等を行う。
* 土砂災害のおそれのある階または施設からの退出が概ね完了した時点において、未避難者の有無について確認する。

7.　避難の確保を図るための施設の整備

* 情報収集・伝達及び避難誘導の際に使用する施設及び資器材については、下表「避難確保資器材等一覧」に示すとおりである。
* これらの資器材等については、日頃からその維持管理に努めるものとする。

避難確保資器材等一覧

|  |  |
| --- | --- |
| 活動の区分 | 使用する設備又は資器材 |
| 情報収集・伝達 | テレビ、ラジオ、タブレット、ファクス、携帯電話、懐中電灯、電池、携帯電話用バッテリー |
| 避難誘導 | 名簿（職員、利用者等）、案内旗、タブレット、携帯電話、懐中電灯、携帯用拡声器、電池式照明器具、電池、携帯電話バッテリー、搬送具、ライフジャケット、蛍光塗料  施設内の一時避難のための水・食料（3日分）、医薬品、寝具・防寒具 |

8.　感染症対策

新型コロナウイルス感染症が収束しない中、避難時の感染症対策は必須となることから、事前の準備等を入念に実施する。

(1)感染症対策備品

体温計、マスク、アルコール消毒液、ペーパータオル、ゴミ袋

(2)避難所の検討

市役所が指定する避難所は、一般の避難者も多く避難することから、必然的に密閉・密集・密接のいわゆる「3密」の状態となる確率が非常に高くなる。このことから、市役所が指定する避難所以外の避難所も検討する。

9.　防災教育及び訓練の実施

(1)防災教育

　　施設の管理権限者は、防災体制に関して職員に対し研修を行い、情報伝達や自主避難の重要性を理解するよう努める。研修は、訓練と併せて実施することを基本とし、主な内容は次のとおりとする。

　　① 土砂災害の前兆やその特性

　　② 情報収集及び伝達体制

　　③ 避難判断・誘導

　　④ 本避難確保計画の周知

(2)訓練

　　避難訓練は研修と併せて実施することを基本とし、全職員を対象に、机上訓練を含め本避難確保計画の内容を把握するために行う。訓練は次の事項を勘案し行い、実施時期は出水期(6月)前を目途とする。

　　① 訓練内容

　　② 情報収集及び伝達

　　③ 避難判断

　　④ 避難訓練（利用者の特性に応じた避難手法、避難方法などを考慮）

**【施設周辺の避難経路図】**

別紙○

土砂災害時の避難場所は、香取市総合防災マップから、以下の場所とする。



施設及び避難先の位置と、施設から避難先までの避難ルートを貼り付けてください。